

アメリカ研修3日目の報告でございます。

昨日の夜、本日午前中までの大雪（吹雪）警報が発令され、語学学校が休校となりました。残念ですが公立校も休校となる状況で、安全面を考慮、また雪の対応に慣れた富山県とは異なり、公共交通機関の混乱も予測されたための判断でした（結果はあまり積もらなかったのですが…）。なお語学学校は早めの判断で休校となりましたが、午前中の時点で公共交通機関が平常運転であり、また午後の天候は回復したため、13時半に集合し、ハーバード大学の見学は実施いたしました。生徒皆、午後の集合ということもあり、元気が有り余っていたようで、集合時には全員笑顔で集合し、お互いに今の生活の情報をうれしそうに語りあう様子が印象的でした。

そしてハーバード大学では、前半はボストンで活躍され、金曜日には講演もいただく予定の、日本人企業家 松川原氏がキャンパスツアーをして下さいました。施設を回りながらハーバード大学がなぜ常に世界ランキングの上位に入っているのかなど説明して頂き、これからどのように生徒達が高校での学びに向き合えばよいのか考えるよう促していただき、また失敗してもいいからやってみることが大事だということを熱く投げかけていただきながらの見学となりました。

また後半は、ハーバード大学公衆衛生大学院 博士研究員の木野 志保氏も加わり、ハーバード内チャペルでの質疑応答となりました。木野氏は愛知県出身で東京医科歯科大学を卒業され、順天堂大学健康学科で修士号を取得、その後イギリスのサザンプトン大学に客員助手として留学、そしてロンドン大学のキングスカレッジで学ばれ、二つ目の修士号そして博士号を取得されました。2017年に渡米し、ハーバード大学院で日々研究をされています。

木野氏から簡単な自己紹介をいただいた後は、生徒たちに質問をするよう促していただきインタラクティブにハーバード大学や留学のこと、そして研究や学びに関して、また語学の習得に関してなど、生徒たちの疑問に沿って幅広くお話をいただきました。質問がどこまで出るか心配はしていたのですが、徐々に手が上がり、またそれに対して誠実にお答えをいただく中で、多くの学び、気づきを得られたように思います。木野先生の専門分野が「公衆衛生」のため、健康の問題を個人の問題としてとらえるのか、社会の問題としてとらえるのか、普段あまり考えたことのないようなトピックもありましたが、分かりやすい言葉と具体例を使って教えてくださいました。また経歴を見る限り英語が元々堪能であったように思われますが、留学を昔から考えていたわけではなく、通常の日本の教育課程を経てただけで、日本で勉強をしている時はほとんど会話が出来なかったそうで、「英語が通じない、また理解できないことで相手に不快な思いをさせるのではないかと恐怖感を持っている生徒の質問に、木野先生ご自身の体験からロンドン留学時は、教授の話が理解できなかったことももちろんあったが、周囲が別の言い方で説明をしてくれ支えてくれたというお話もいただきました。言語を学ぼうとされている相手が一生懸命頑張っているのに不快に感じるような人はいないし、逆に助けてくれる。この点で語学学校のクラスでも遠慮せずとにかく発言をすることが大事だということも補足いただきました。明日からの授業に不安を抱いている生徒たちには、ハーバードで研究をされている木野氏であっても英語には苦勞されていたということに勇気を得られたことと思います。



ジョン・ハーバード像の前で



キャンパス見学の様子



木野先生のお話

明日は一日遅くなってしまいましたが、語学学校での授業が開始となります。
今日は残念ながら休校となりましたが、その分1分1秒を惜しみ、積極的に取り組んでいただきたいと思います。
それでは3日目の報告は以上とさせていただきます。